

2020 年 1 月 30 日

2019 年度 聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士課程課題研究

妊婦に対する胎児ボンディングを促進するための
支援に関する文献レビュー
Support to Promote Mother-Fetal Bonding:
A Literature Review

学籍番号 18MW014

二井 優子

論文要旨

【目的】本研究の目的は、正常な妊娠経過にある妊婦に対する胎児ボンディングを促進する介入の方法とそのアウトカムを系統的にレビューし、その有用性を検討することである。

【方法】医学中央雑誌 Web (Ver.5)、PubMed/Medline、The Cochrane Library、PsycINFO を用いて検索を行い、採択文献は Cochrane Handbook for Systematic Review of Interventions (Higgins & Green, 2008) に基づいて、研究のバイアスリスクを評価し、結果について記述的分析を行った。

【結果】レビュー対象を RCT に限定し、組み入れ基準に満たす文献が 6 件抽出された。介入内容は、採択文献のうち 3 件は妊婦自身が行う胎動カウント、2 件は医療者による 4D 腹部超音波検査、1 件は自宅における音楽鑑賞であった。すべての研究は妊娠期の胎児ボンディングを促進することを目的として実施され、胎児ボンディングの程度は自己記入式質問紙(得点が高いほどボンディングが良好なことを意味する MAAS, MFAS 等)によって評価されていた。4-5 週間の胎動カウントを介入とした 2 件の研究のうち 1 件(Guney & Ucar, 2019)は、介入前後の MAAS の合計の差を比較し、MAAS 得点が対照群と比較して高かった(介入群 7.63vs 対照群 0.67, $p < 0.001$)。もう 1 件(Mikhail et al., 1991)では、MFAS の合計の平均値を比較して、MFAS 得点が対照群と比較して高かった(介入 A 群 3.79vs 対照 C 群 2.97, $F = 3.88$, $p < 0.05$ 、介入 B 群 3.81vs 対照 C 群 2.97, $F = 3.05$, $p < 0.05$)。しかし、胎動カウントによる 1 件の介入でバイアスリスクの低い研究では介入効果は示されなかった。4D 腹部超音波検査、音楽鑑賞を実施した研究では介入による胎児ボンディングへの介入効果は認められなかったが、これらはすべて、単発または短期間の介入であった。すべての採択文献において、参加者と介入者、アウトカム評価者の盲検化はされておらず、研究全体としての実行バイアスと検出バイアスが強く、他のバイアスリスクにおいては不明確なものが多かったことから採択文献 6 件の全体としてはバイアスリスクが中等度から高いと判断した。

【結論】正常な妊娠経過にある妊婦の胎児ボンディングを促進する介入として、有効性を示したものは胎動カウントであったが、研究のバイアスリスクが高いことから、介入の効果については明確にならなかった。しかし、実際の有用性としては副作用がなく、費用が掛からず、妊婦自身が簡単に実施できる内容であり、働きかけをする助産師の特別な技術も必要としないことから多くの妊婦へ適応できる介入である。今後、有効性を明確にしていくために、バイアスリスクを低くし、アウトカムの測定方法や測定時期を固定し、さらなる研究の積み重ねが必要である。